

保存版

もしも
のために

久米南町
災害
ハザードマップ

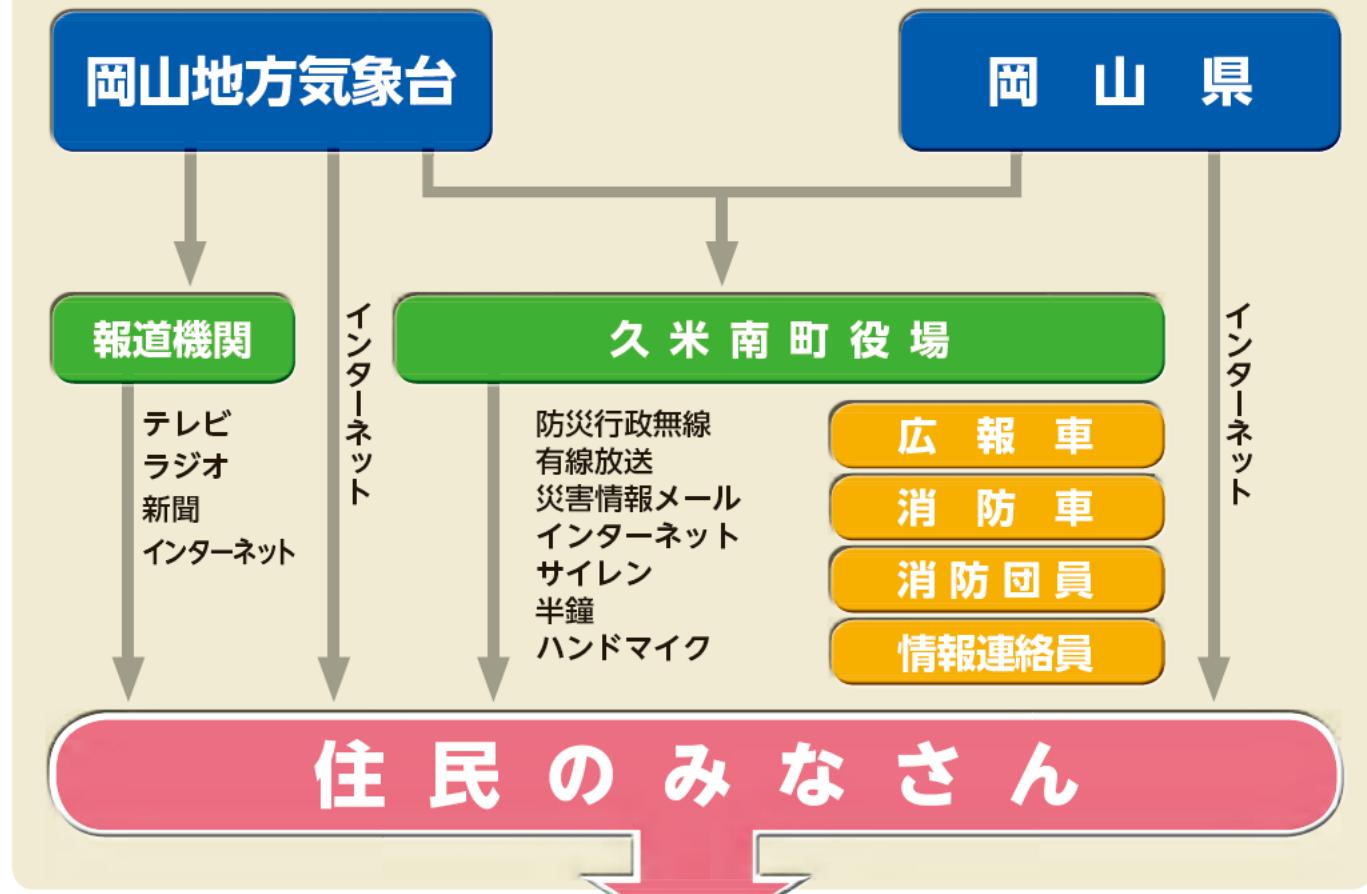


平成27年3月

岡山県久米南町

正しい情報をキャッチしよう!

災害情報の伝達経路



避難準備情報

- どんな状況なの？**
人的被害の発生する可能性が高まった状況。
- どうすればいいの？**
- 避難に時間要する方は避難行動を開始してください。
 - 通常の避難行動ができる方は避難する準備をしてください。

避難勧告

- どんな状況なの？**
人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。
- どうすればいいの？**
- 災害の危険性が高まつたので避難行動を開始してください。

避難指示

- どんな状況なの？**
人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。
- どうすればいいの？**
- 直ちに避難してください。
 - 避難中の方は直ちに避難を完了してください。

危険度

避難勧告より避難指示の方が危険が迫っており、即座に避難しなければならない状態です。

雨の強さと目安を知っておこう!

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に 10以上～20mm未満の雨	1時間に 20以上～30mm未満	1時間に 30以上～50mm未満	1時間に 50以上～80mm未満	1時間に 80mm以上～
				
ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような 圧迫感がある。 恐怖を感じる。
この程度の雨でも長く 続く時は注意が必要。	側溝や下水、小さな川 があふれ、小規模の崖 崩れが始まりやすくなる。	山崩れ・崖崩れが起き やすくなり危険地帯で は避難の準備が必要。 市街地では下水管から 雨水があふれることも。	市街地では地下室や地 下街に雨水が流れ込む 場合がある。 マンホールから水が噴 出する。 土石流が起こりやすい。 多くの災害が発生す る。	雨による大規模な災害 の発生するおそれが強 く、厳重な警戒が必要。

出典：雨の強さと降り方（気象庁）

気象警報・注意報の種類について

気象庁は、大雨や強風などによって災害が起こるおそれのあるときは「**注意報**」を、重大な災害が起こるおそれのあるときは「**警報**」を、さらに、重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「**特別警報**」を発表して注意や警戒を呼びかけます。

特別警報・・・大雨、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮

警 報・・・大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮

注 意 報・・・大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪

■土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

■早期避難をお願いします

土砂災害警戒情報等が発表されていないくとも、斜面の状況には常に注意を払い、普段と異なる状況に気がついた場合には、直ちに周りの人と安全な場所に避難してください。



特別警報ってなに?

東日本大震災による津波や、平成23年台風第12号による紀伊半島を中心とする大雨では、極めて甚大な被害が出ました。

これらにともない、気象庁では大規模な災害の発生が切迫していることを伝えるために、新たに平成25年8月から「特別警報」を創設しました。

■発表されたら?

ただちに命を守る行動をとってください。

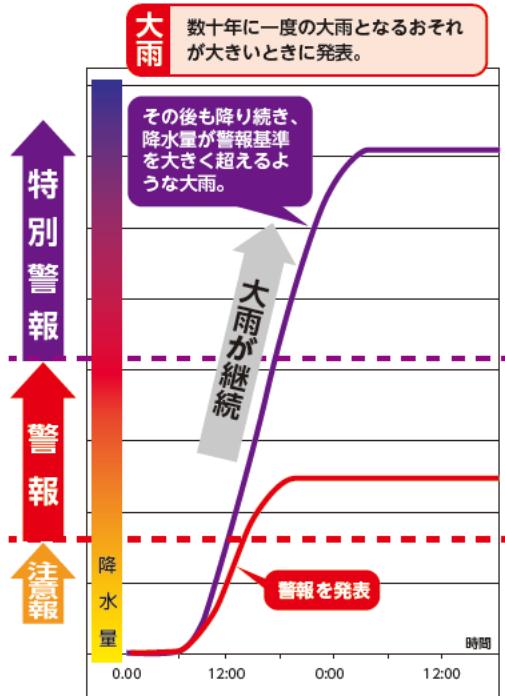
■どんな時に発表されるの?

数十年に一度の大雨などが予想された場合に特別警報を発表します。

■特別警報の発表基準

大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合。
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合。
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合。
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合。
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合。 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

※その他に高潮・波浪・津波・火山噴火があります



特別警報に相当する事例

気象等	発生年月	災害名	死者行方不明者数
	平成24年 7月	九州北部豪雨 (大雨)	死者行方不明者32人
	平成23年	台風第12号 (大雨)	死者行方不明者98人
	昭和34年	伊勢湾台風 (大雨・暴風・波浪・高潮)	死者行方不明者5,000人以上
	昭和 9年	室戸台風 (大雨・暴風・高潮・波浪)	死者行方不明者3,000人以上
地震	平成23年 3月	東北地方太平洋沖地震	死者行方不明者18,000人以上 (津波を含む)
	平成20年 6月	岩手・宮城内陸地震	死者行方不明者23人
	平成19年 7月	新潟県中越沖地震	死者15人
	平成16年10月	新潟県中越地震	死者68人
	平成 7年 1月	兵庫県南部地震	死者行方不明者6,437人



- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難所や避難路を確認しておきましょう。

参照：特別警報リーフレット（気象庁）

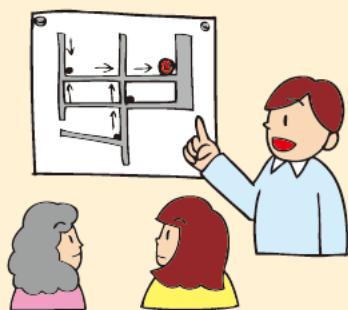


避難時の心得

災害はいつやってくるか分かりません。被害を最小限にするために、いざというときに備えて日頃から災害について家族で話しあっておくことが大切です。定期的に「家族防災会議」を開きましょう。

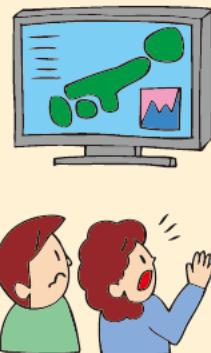
1 安全な避難路の確認を

避難所までの経路（避難路）はあらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。



2 正確な情報収集と早めの行動を

ラジオ、テレビ、携帯電話やインターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や地震の程度などに注意し、危険を感じたら早めに行動することを心がけましょう。



3 避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、役場や消防団などから避難の呼びかけをすることがあります。避難の呼びかけがあった場合は、速やかに従ってください。



4 動きやすい服装と2人以上で避難を

避難するときは、動きやすい服装で万一の場合に備え2人以上のグループで行動するよう心がけましょう。



5 車での移動は避けて

車での移動は緊急車両の通行の妨げになるほか、交通渋滞をまねきます。特別な場合を除き徒步での避難を心がけましょう。



6 足元に注意を

浸水している道路を歩くときは、さぐり棒などを持ち、側溝や排水路に転落しないよう安全に注意しながら避難しましょう。



避難行動要支援者のために

■避難行動要支援者とは

災害時に、または災害が発生するおそれがあるときに、高齢者、障がい者や乳幼児など自ら避難することが困難で避難するために何らかの手助けが必要な人たちのことです。

避難時のポイント

高齢者・病気の方

- 緊急のときはおぶって安全な場所まで行く。複数の介助者で対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。



車椅子の方

- 階段では、二人以上の介助者が必要で、上るときは前向き、下りるときは後向きにして移動する。



耳の不自由な方

- 話すときは、口の開け方をハッキリと、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振り、手のひらに指で文字を書くなどの方法で正確な情報を伝える。



目の不自由な方

- 緊急時のときは、声をかけ、正確な情報を伝える。
- 誘導する際には、杖を持っていない方の手を介助者の肘あたりを持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



自主防災組織に参加しよう！



大規模な災害が発生したとき、消防や救助隊はすぐにかけつけることができません。「自主防災組織」とは地域の住民が力をあわせ、協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的に結成された組織のことです。また、災害時だけでなく平常時にも防災に関する住民への周知など重要な活動があります。

	平 常 時	災 害 時
情報連絡	<ul style="list-style-type: none">・防災知識の普及・啓発・情報収集の方法や伝達確認	<ul style="list-style-type: none">・災害情報の本部への伝達・住民への災害情報の伝達
消火活動	<ul style="list-style-type: none">・消火訓練の実施・防火資機材の点検整備	<ul style="list-style-type: none">・初期消火活動・消防機関、消防団への補助活動
避難誘導	<ul style="list-style-type: none">・避難所及び避難路の確認・避難訓練の実施	<ul style="list-style-type: none">・避難誘導・避難所運営
救護活動	<ul style="list-style-type: none">・救護救命講習の実施と参加・災害時要援護者の確認・台帳作成	<ul style="list-style-type: none">・負傷者の搬送、応急手当・避難所、救護所での補助活動
給食活動	<ul style="list-style-type: none">・炊き出し訓練・炊き出し機材の点検整備	<ul style="list-style-type: none">・避難所での物資の配布・避難所での炊き出し

南海トラフ巨大地震による震度分布図・液状化危険度分布図について

○南海トラフの巨大地震

内閣府に設置された「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で検討された地震です。地震規模はマグニチュード9.0で、想定する震源域は駿河湾から日向灘に至る巨大地震です。国が検討したケースのうち、岡山県では陸側のケースでの揺れが大きいので、このケースを対象に推計を行いました。

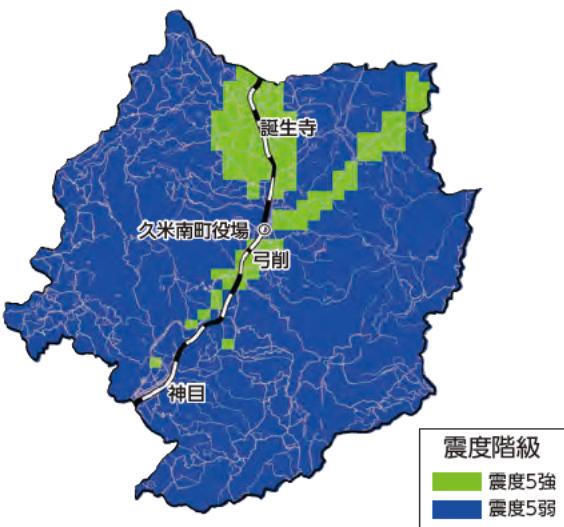
なお、この南海トラフの巨大地震については、その発生時期を予測することができない、発生頻度が極めて少ないものとされているものです。

県では、国が平成24年8月に公表した南海トラフ巨大地震による震度分布、津波浸水域等を受け、国が用いたデータに、県独自に収集した地質データ等を追加し、より詳細な震度分布図と液状化危険度分布図を作成しました。

なお、今回作成した分布図は、現時点の最新の科学的知見に基づき南海トラフにおいて想定される最大クラスの地震が発生した場合の本県における震度分布等ですが、こうした地震の発生頻度は極めて低いものであり、次に発生する地震を示したものではありません。また、地震・津波は自然現象であり不確実性を伴うものであることや、現在の科学的知見には限界があることなどに留意する必要があります。

○震度分布図

国が用いたデータをもとに、深部地盤については国のデータを用い、表層地盤については、県独自に収集した地質データや県内の公共工事等で取得したボーリングデータを追加して、より詳細に把握した上で、岡山県独自に推計を行いました。なお、推計は250mメッシュ（格子）単位で行いました。



※使用したボーリングデータ等について

震度分布図及び液状化危険度分布図は、平成24年3月末までに、公開されている地盤データや市町村等から提供されたボーリングデータを使用して作成したものであり、本県で集めうる過去一定時点のデータ等により判断したものです。したがって、推計に用いることのできたデータは限られたものであり、それ以降に行われた調査のデータは反映しておりませんので御留意下さい。

○液状化危険度分布図

液状化とは、地震の揺れによって砂粒が相互にかみ合っていた状態がはずれ、土が泥水化する現象です。埋立地や河口など水分をたくさん含んだ砂質の地盤で発生する現象で、噴砂や地盤沈下を伴います。

平成23年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、震源域から遠く離れた東京湾岸でも広域に発生し、巨大地震では遠方でも発生することがわかっています。

液状化危険度の判定には、PL値を用いました。PL値とは、その地点での液状化の危険度を表す値です。推計は250mメッシュ単位で行いました。



※液状化危険度分布図を参照する際の注意事項

液状化危険度分布図は、250mメッシュ区域内の平均的な地盤データに基づき液状化的判定をしていることから、そのメッシュの中には液状化危険度が異なる地盤が含まれていることがあります。

液状化危険度が高い地域においても、既に、地盤を改良して土地利用されている場所や、液状化対策を実施しているところもありますが、この分布図では考慮しておりません。逆に、液状化危険度が低い地域においても、ため池等を埋め立てたような箇所は液状化の可能性は高くなります。今後、建築物の建設や開発行為などを実行する際には、個々に地盤調査を実施していただき、対策の検討を行っていただくことを推奨します。特に、過去に液状化が発生した場所では、大規模な地震が発生すると液状化が起こりますので、調査を実施することを推奨します。

避難時持出品

日頃から、いざというときにすぐ持ち出せるよう準備しておきましょう。

非常持ち出し品（例）

□貴重品

- ・預金通帳
- ・印鑑
- ・現金

□飲料水

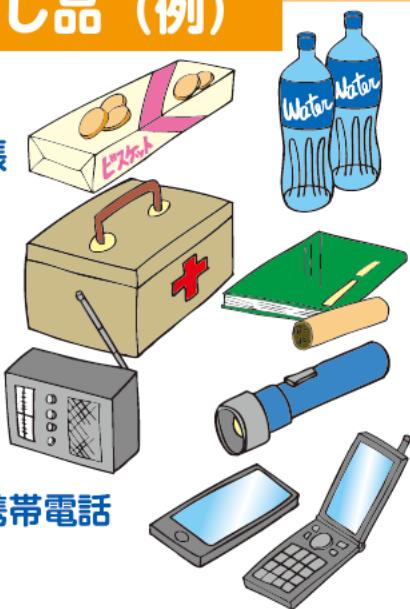
□食料品

□常備薬

□懐中電灯

□ラジオ・携帯電話

□日用品

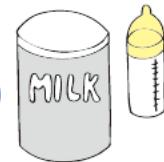


食事療法の必要な方がいる家庭は

□糖尿病・腎臓病・アレルギー等の疾患に適した食品

小さな子どものいる家庭は

- ミルク
- ほ乳びん
- 離乳食（ベビーフード）
- 紙おむつ



ペットのいる家庭は

- ペットフード
- ケージ
- ふん尿の始末用品



高齢者のいる家庭は

- おかゆなどやわらかい食品
- とろみ剤（飲み込みにくい方）



リュックに
背負える程度で
両手が使えるよう
できるだけ軽く！



我が家家の防災メモ

避難所	集合場所	緊急連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校名	連絡先